

だれでしょう？3ヒントクイズ

() 組 なまえ_____

領域・形態・時間	話すこと〔発表・やり取り〕 クイズ作り15分＋大会20分×2時間
ねらい	身近な人を3つのヒントで紹介し、Who is this? — It's my! のやり取りを楽しむ（単元ゴールの本番）。

やり方 この流れでやってみよう

- 1 Choose your special person.
紹介したい人を1人決める（家族・先生・友だち・コーチ、だれでもOK）
- 2 Write 3 hints. Big → small!
ヒントを3つ作る。大きいヒント→小さいヒントの順（すぐバレないのがいいクイズ）
- 3 Quiz time! Hint 1... Hint 2... Hint 3!
グループでクイズ大会。1つずつヒントを言う
- 4 Who is this? — It's my ...!
みんなが Who is this? と聞いたら、こたえの発表！

クイズカード ヒントは「大→小」の順にしぼりこもう

ヒント1（大きく）	This is my（かぞく？先生？友だち？） _____
ヒント2（できること）	He/She can ... well. _____
ヒント3（とっておき）	ジェスチャー・ものまね・好きなものなど、その人らしさ！ _____
こたえ	It's my! _____

聞く人のことば：Hint, please!（ヒントちょうだい）／Who is this?（だれでしょう？）／I know!（わかった！）／It's your mother!（お母さんだ！）

ルール
①こたえを先に言わない（しぼりこむのが楽しい） ②紹介される人が聞いてもうれしいヒントにする ③わからなくても Hint, please! でもう1回聞ける

☆レベルアップ！ 全ヒントを英語で言えたら「マスタークイズ王」。ジェスチャーだけの「サイレントヒント」を混ぜても盛り上がる。

先生へ（運用のコツ・中間指導）

- ・第5時にクイズを作り、第6・7時で大会。作る日と発表する日を分けるのが時数リアリズム（1時間に詰めると崩壊する）
- ・◎第5時の見取り（知技）はクイズカードの文で。He/She の選び分けと can の文が書けているか（写して OK）
- ・中間指導では「ヒントIを大きくぼかした子」（例 This is my family. だけ言って、だれかまでは言わない）を紹介→しぼり込みの妙を全体へ
- ・からかいにつながるヒント（見た目いじり等）は初回に釘を刺す。「その人のすごいところ・すてきなところ」限定

中間指導の進行台本（第6時）

この紙は先生用（1部だけ）：主活動の20分を「1回目 → ことばの補給 → 2回目」のサンドイッチにする先生用の台本。1回目で言えなかったことを、同じ20分のうちに「言えた」に変える——時間は1分も足さない。

20分のサンドイッチ 第6時の主活動20分＝クイズ大会①を「サンドイッチ」にする

分	やること	先生のうごき
0-7	クイズ大会1回目（班で2～3問）	先生は「ヒントでつまった子」を見つけておく
7-9	あつめる：言いたかったのに言えなかったこと	「日本語でOK」と先に宣言する。出題側と回答側の両方から集める
9-12	英語にする：下の補給表から黒板へ	近いものを書き写し、全員で2回ずつ声に出す（先生がその場で英語を作らなくてよい）
12-13	自分の台詞にもどす	さっき言えなかった子が、となりに向かって1回言えたら準備完了
13-20	クイズ大会2回目（残りの問題）	「補給したことばを1つ使えたら名探偵」。答えのあとのひとことまでがクイズ

ことばの補給表 「言いたかった」を、ここから黒板に書き写すだけ

言いたかったこと	こう言える	ひとこと
正解！	That's right!	クイズの決まり文句——3年生の What's this? クイズから使ってきたことば
ヒントもう1つちょうだい	One more hint, please.	One more ～, please. は何にでも使える
男の人？女の人？	He? She?	1語で聞ける——この単元でいちばん大事なちがいがい
わかった！お母さんでしょ！	Your mother!	2語で立派な答え。文にできたら It's your mother!
おいしい！	Nice try!	ゲームの定番のはげまし
やさしそうな人だね	She is kind.	紹介の文は、あいづちにも使える
（ヒントに）つまったら	（写真や絵を指して）Look!	指さしも立派なヒント
もう一回言って	One more time, please.	聞き返しは道具

表にないことばが出たら
「そんけいしている」「たよりになる」のようなことばは、無理に英語にしない。「人がらのことば（kind / funny / cool）に近づけてみよう。今日は日本語＋ジェスチャーでOK」と返す——まちがった英語をその場で作らないことがいちばん大事。

先生へ（この20分の勘どころ）
・この20分は主活動そのもの——時間は足さない。第7時のクイズ大会②も、この台本と同じ進行で回せる
・補給は回答側のことばに寄せた——ヒントの3文はクイズカードにもうある。大会が盛り上がるかは、答える側の声で決まる
・はやい班には記録役（「言えなかった」を1つ選んで発表）や、正解数を数える係を。先生役は頼まない
・2回目のあと「He? She? で聞けた人？」と挙手確認——できることリレーで He/She を使う下ごしらえ